

シルバーだより

いきがい

発行

公益社団法人

佐用町シルバー人材センター

広報編集委員会

〒679-5301 兵庫県佐用郡佐用町佐用 1035-14

TEL (0790) 82-9630 FAX (0790) 82-3034

ホームページアドレス <http://savosilver.sakura.ne.jp>



謹賀新年

主な内容

- ・ 有本理事長新年挨拶、井上恭一氏 永年会員十五年受賞
- ・ 役員挨拶・竹内安全委員長・新年安全宣言
- ・ 会員寄稿(年男) ・ 敏森正勝・三浦正則
- ・ 会員親睦旅行
- ・ 事務局だより、設立二十周年記念事業開催・配分金支払日
- ・ 編集後記





理事長 有本長治郎

さらなる御指導、ご協力を・・・

新年明けましておめでとうございます

会員の皆様にはお揃いでお健やかに新年をお迎えることと慶賀の至りに存じます。

日頃はシルバー人材センターの就業にご精励頂き誠にありがとうございます。心より厚くお礼申し上げます。

人はそれぞれの人生行路を経て今日の姿・今日の自分があります。シルバー人材センターの会員の皆様はそれぞれに六十年を越える永い人生経験を経て深い知識や技能を身につけ地域社会における貴重な人材(財)なのです。

それぞれ自分の家族を守り大なり、小なり地域を支えてきた自負心もあると思います。若い頃はがむしやらに働き永い社会人生活を送る中でそれぞれの人生の目的、目標をしっかりと掴み歩んでこられました。

今、地域の中でこれまでの経験を生かし或いは新たなことに挑戦する姿は少子高齢化、人口減少の現今社会の維持、再生活活性化の大きな資産であります。目的、目標を持って人生を送ることの大事は今更言うまでもありません。地域の中で孤独に陥らないようにこれからの社会の役割の一部を担っていくという積極的な社会参

加が求められていると考えます。

「福祉の受け手から社会の担い手」と云うシルバー人材センターのキャッチフレーズは高齢者の方向性を象徴するものと思います。その時代に受け入れられ地域に存在が評価されるシルバー人材センターとして成長しなければなりません。

平成二十九年の新春にあたり雑感を申し述べ変わらぬご協力、ご指導をお願い申し上げます。更に会員の皆様にとつて幸多い年であり、ますことを御祈念申し上げます。

役員 挨拶

理事長 有本長治郎

副理事長 寺本義弘 (上月地区推進員)

常務理事 田邊弘文 (事務局長)

理事 井上 薫 (佐用地区推進員)

理事 松本富美一 (南光地区推進員)

理事 宇多 操 (三日月地区推進員)

理事 山本芳雄

理事 舟引良基

理事 竹内勝也

理事 坪内頼男

理事 西崎光男

監事 三宅賢三

本年もよろしくお願い致します

県シルバー人材センター三十周年記念式典に参加

井上 恭一

平成二十八年十月二十日(木)神戸新聞文化情報ビル松方ホールにて三十周年記念式典が開催されました。平成二十八年度はシルバー事業法制化され三十年の節目の年であり、会員の参画意識を高め事業の発展を図る式典でもありました。役員、会員等約六百人が参加。永年会員二十五年、二十年、十五年の会員にそれぞれ県知事表彰、県シルバー人材センター協会会長表彰があり、私は十五年表彰を受けました。十五年間多くの方々との出会い、難しい仕事の達成感等多くの感謝で過ごしてきました。今年で八十歳になりますが、これからも健康に留意し、安全第一で体の動く限り頑張りますのでよろしくお願い致します。

安全宣言

竹内安全委員長

新年明けましておめでとうございます。輝かしい新春を御家族お揃いでお迎える事とお慶び申し上げます。

さて 昨年は皆様が安全第一に考えて作業に取り組んで頂いた御蔭で大きな事故も無く新しい年を迎える事が出来ました。安全委員会も年4回のパトロールと8回の委員会を開き安全対策を実施しました。これから寒い時期になり体の動きも鈍くなります。どうか安全に心懸け無理をせずに仕事をし、て載きますようお願いいたします。

二十九年度も引き続き事故「ゼロ」を目指して全員で事故対策に取り組んでいきましょう。

寄稿・年男

体育館夜間管理で思う事

三浦 正則

上月体育館夜間管理の仕事を始め二年余りになります。午後五時前に出勤し使用時間の午後十時までで、夏季はアリーナ二階のカーテン閉めに始まり、当日の使用場所の開錠、照明等を行います。

グラウンド使用があれば照明の点灯も、午後十時には逆に消灯、各入口の施錠となります。体育館各ルームで種々の団体の予約時間が来ると練習が開始されその団体独特の熱のこもった気合が館内に響き渡ります。

小学生低学年柔道、少女バスケット、サッカー、剣道等の力強い掛け声を聞いていると、高齢の私でも気持がリフレッシュされます。又一番感心することは、バスケット、少女バレーの子が練習前と後に事務室の前に整列して「こんにちは。よろしくお願いします」、「ありがとうございます。ございまして。さようなら」と大きな声で挨拶をして帰ります。スポーツマンの又普段の生活の基本になる礼儀作法を素直に学んでいると思います。実社会において私も声を出して挨拶する事を心掛けておりますが練習後の挨拶を受ける度にどう返事を返してよいか考えさせられます。

なんでもないことのようにですが、シルバークの仕事の大切さ、喜びを感じながら勤務を続けて行きたいと思っております。

寄稿・年男

働く喜びは生きる最上の喜び

敏森 正勝

当人材センターに入会した時、登録番号は四百と云う大きな団体である事は高齢化とは言え元氣人が多いことに驚きであり、それだけ志を持って働く意欲と人助けの意味を兼ねた知恵の蔵と言う場であると思っております。

あえてこの出会いに感謝しつつ、誰でもできることよりも出来ない事に身をよせ、失敗しても二度と同じことを失敗するのではなく、必ず成功を夢みて努力を積み重ねれば平凡は非凡に変わることがひとつの救いであり老いても社会に貢献できる場所が人材センターではなからうかと思っております。

世のため人のために尽くす利他の心をもち自分の利より相手に利を図る他人への思いやりを持つことを常に意識しながら人生を送る大切さを心掛ける様「布施」の力を大切にしていく事を障害をのり越えて一歩前進しなければならぬと思いい机に向かい筆を走らせています。それが自分の生きがいであり楽しさが生まれてくるものだと感じていきます。

ただ、常に相手があつてこそ自分が成りたつている事を忘れず感謝しなければならぬ。

今年は五回目の年男、よりよい一年を築き上げていきたいと思っておりますのでご指導のほどよろしくお願いいたします。

会員親睦旅行

昨年十一月十四日に会員六十六名が参加して親睦旅行を開催しました。

二台の観光バスに分乗して「京都方面・金閣寺、京都鉄道博物館」の見学で特にまばゆいばかりの金閣寺と、日本の輸送の原動力を支えてきたJR(元国鉄)の輸送システム、歴代車両の展示等心に残る場面が多くみられました。思い出づくりと親睦を深める感動の一日でした。これからも会員相互の親睦を高めるための、楽しい親睦旅行を計画いたしますので、多くの会員の参加をお待ちしております。



配分金の確定申告について

会員の皆様に支払われるシルバー人材センターの配分金は、所得税法上では雑所得として取り扱われます。下記に該当する収入は確定申告の必要がありますので、確定申告をして下さい。

※（配分金等の収入だけの場合）

年間配分金の合計が103万円を超える場合

※（配分金の収入の他に年金収入がある場合）

（年間配分金額－必要な経費の控除額65万円）＋（公的年金額－公的年金控除額）
が（基礎控除額38万円＋扶養控除額）より多い場合は確定申告が必要です。

○ 税の申告で分からない場合は、相生税務署（TEL0791-23-0231）にご相談下さい。

事務局だより

法人設立二十周年記念事業を二月に開催

平成九年社団法人として発足から二十年を経過した当センターは、二月下旬に祝賀行事を計画しております。

主な内容として、記念式典（会員表彰、アトラクション、記念品贈呈、会食等）や記念誌発行です。開催日時、場所等詳細が決まり次第、会員の皆様へお知らせします。

シルバー人材センター

会員募集！

次の内容で募集していますので、ご紹介下さい。
佐用町在住の概ね六十歳以上の方で健康で働く意欲と能力があり、シルバー人材センターの趣旨に賛同して頂ける方であれば、どなたでも会員になれます。会員の皆様より勧誘活動をお願いします。

配分金支払日

| | |
|-----------|-----------|
| 1月分↓2月15日 | 2月分↓3月15日 |
| 3月分↓4月14日 | 4月分↓5月15日 |
| 5月分↓6月15日 | 6月分↓7月14日 |

原稿募集

シルバーだより次号の原稿を次のような内容で募集しています。

☆自己体験・随筆・短歌・俳句・写真等

☆原稿締切日 平成29年6月末

☆シルバー人材センター事務局まで。

編集後記

広報「いきがい」回を重ねて十四号発行創刊より七年を経過しました。その内容が会員相互のかけ橋、絆を深めることとなり、健康で明るいシルバー社会活動の糧になればと思います。共にがんばりましょう。本年二月には佐用町シルバー人材センターが設立されてから二十周年を迎えるとのこと。

諸先輩のご努力、実績に感謝し社会生活の移り変わりの中に今、何を考え何に行動するか考えてみたいと思います。……次号は八月発行予定です。会員皆さんの声をお待ちしています。

委員一同



広報委員長 舟引良基

副委員長 秋武 毅

委員 井上 薫

委員 祐保俊彦

標語

安全は一人ひとりが心がけ